肉製品、乳製品製造業における起因物なしを起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	6~7	2期棟1FのPC処理場にて、原料肉の載ったカーゴ台車を引いて移動中、右手首に痛みを感じ、後日に捻挫と診断された。	33	30~49
3	13~14	センター内洗浄室で番重を洗浄しているとき、バランスを崩して転倒し、左手を打ってしまった。当初痛みはあったものの様子を見ていたところ、徐々に腫れが増してきた。	51	100~299
6	7~8	当工場において、鶏肉の味付工程にてマッサージャーを使用した際、マッサージャーの重い蓋を1人で数回、上げ下げを繰り返した。当日は痛みもなく帰宅したが、翌日になり右肩が上がらず、痛みもあることから受診した。	28	50~99
6	16~17	冷蔵庫でガラの入っているカゴを持ち上げようとした際、右肩に痛みを感じた。	65	—
6	7~8	本社豚肉解体工場内にて、豚バラ肉のバラ骨脱骨作業中、T棒という道具を使用し、豚のバラ骨を除去する作業をしていたところ、T棒を強く引いた際に、腰に強い痛みを感じて動けなくなった。	25	50~99
6	18~19	当社急速冷凍庫にて、翌日納品分の準備をしていた。庫内では、両足を開き腰を落として四股の様な体勢をとり、商品（約20kg）を入れたカゴを3段重ねにして右手で引きずり出してから、反対側を左手で掴み、抱えて運んでいた。しかし、庫内には作業スペースが少なく、抱える際には上半身を左に捻りつつ抱える必要があったが、まさに上半身を捻った際に腰に強い痛みがはしった。	39	30~49
		豚肉のウデを解体中、肩甲骨の骨を取るときに、肩甲骨の骨を浮かせるために、長		

7	13~14	さ約40cmの棒を右手に持って肩甲骨の裏に挿し、左手で肉を向こう側へ押したとき左手首がギクツとなった。手をブラブラさせたりして、痛かったが様子を見ながら作業を続けてその日は最後まで仕事をした。自宅で塗り薬を塗って翌日出勤したが、傷みが治らないので早退した。	56	~ 99
7	8~9	工場内にて、ハンドリフトを使い、原料卵を載せたパレット（1段、9山／1山当たり2kg）を移動中、隣に置いてあった原料卵のパレットに引っ掛かり、原料卵の入ったアメリカントレーが落下するのが見えたため、あわてて手で押さえようとし、急に腕を伸ばしたときに、右肩に痛みがはした。	67	~ 29
9	11~ 12	社内レクリエーション大会にて、二人三脚障害物リレーに参加し縄跳びをしている時に、バランスを崩してしまい転んだ時に、右足の足首を負傷した。	47	~ 29
9	9~ 10	工場に出勤し、私服から作業服に着替えるため、2Fの更衣室に入室する直線の廊下で足がもつれ床に顔面から転倒し、右頬骨を骨折した。	62	~ 299
9	18~ 19	当日の業務終了後、いつもの様に車で帰宅のため敷地内駐車場の自転車駐車位置まで向かう途中、ゴミ収集車が止まっていたためそれを避けて歩行中、誤って左足を挫いてしまい左足首を骨折負傷したものである。	64	~ 99
11	10~ 11	Eランプ地上部に配線用ダクト布設作業を行っていたところ、ダクト運搬用のクレーン付バックホーのキャタピラがラバーコーンを移動させようとした作業員の左足内側面と接触した。	66	~ 29
11	5~6	工場非加熱ラインにて、肉台車の一番下の段から、鶏肉と解凍水の入った番重（18kg）を持ち上げた際に、腰部に激痛が走り、その後早退し受診したところ、第4腰椎椎体骨折と診断される。	61	~ 49

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html